

都市臨海部の水辺空間における利用状況および利用者の意識 —北九州市の公共マリーナにおけるアンケート調査結果—

Utilization Status and Visitors' Perception at Urban Waterfront Area
—Results of Questionnaire Survey at Public Marina in Kitakyushu City—

片山正敏*

Masatoshi Katayama

In planning and designing a marina for a public marine recreation to be involved in waterfront development, it is very important to grasp the significance of the waterfront for the urban residents and reflect it into the environmental consideration by clarifying the processes of variation in their behavior and perception as visitors to the waterfront.

From this point of view, a questionnaire survey was conducted and analyzed to investigate the utilization status and the visitors' perception at a public marina called "Shinmoji Marina" in Kitakyushu City.

This paper first outlines Shinmoji Marina and the questionnaire survey, followed by the detailed results of the questionnaire survey and its analysis.

Keywords:(Public Marina, Waterfront Development, Marine Recreation, Questionnaire Survey)

1. はじめに

都市臨海部水辺空間の利用形態の一つとして、近年の海洋性レクリエーションの要請に対応した「マリーナ」が挙げられる。このようなウォーターフロント開発関連施設の基本計画・設計にあたっては、利用者である都市住民の水辺空間に対する行動・意識過程を明らかにするとともに、都市生活者にとっての水辺の意味を探り、環境計画などに反映することが大切である。

このため、わが国における政令指定都市の一つである北九州市の新門司マリーナにおいて「アンケート調査」方式により、来訪者の利用状況や意識について調査を実施し、その一部についてはすでに報告した。^{1), 2)}

この調査では、平成5年7月～8月の間(合計10日間)、①来訪者の属性・居住地、②来訪目的・来訪頻度・交通手段、③施設の利用状況、④施設利用前の意識、⑤施設利用後の意識について、合計38項目からなる「アンケート調査」を実施し、結果を分析した。

本論文では、新門司マリーナおよびアンケート調査の概要について簡単に紹介するとともに、アンケート調査結果について詳細に述べる。

2. 新門司マリーナの概要

海岸線延長約208kmと比較的長い海岸線や約476km²の市域面積をもつ北九州市では、近年、水辺環境の多様な活用を積極的に打ち出し、「北九州市ルネッサンス構想」では「水辺と緑のふれあいの”国際テクノロジー都市”へ」を基調テーマに、水辺や海を強く意識した施策が立

てられ、各種のウォーターフロント開発プロジェクトが推進されている。³⁾

新門司マリーナは、近年の海洋性レクリエーションの要請に対応するため、北九州市で初めての公共マリーナとして、北九州市の新門司地区(図-1参照)に平成3年11月に完成した。新門司地区は、図-2に示すように、関西と関東を結ぶフェリーの基地として、また、流通関連産業の立地した物流ターミナルとしての整備が進められている。⁴⁾

新門司マリーナの管理運営は、北九州市および民間企業が出資した第3セクターである新門司マリーナ㈱があ

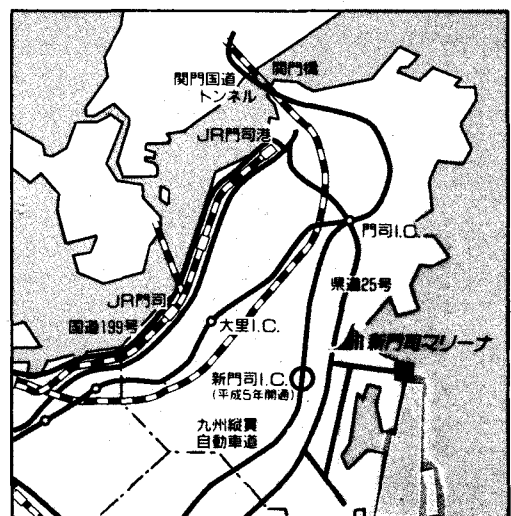


図-1 新門司マリーナの設置場所

* 正会員 九州共立大学工学部土木工学科(〒807 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8)

- ① 舟艇の保管
- ② クラブハウスの運営管理
- ③ 海洋性レクリエーション活動の普及

3. アンケート調査の概要

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	新門司マリーナへの来訪者全員
調査期間	平成5年7月～8月の10日間
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
調査項目	大項目28、合計38項目
回収数	853
有効回収率	807（94.6％）

4. 来訪者の属性、居住地

(1) 来訪者の年齢、性別

また、来訪者の性別では、女性が約57%（456人）と男性（351人）を上回っている。

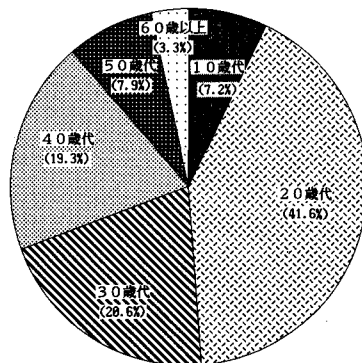


図-3 来訪者の年齢

(2) 来訪者の職業

来訪者の職業は、約44%が会社員と回答しており、続いて、第2位は約18%で主婦となっている。(図-4参照)これは、来訪の主たる目的がクルージング以外であることによるとと思われる。(図-6参照)

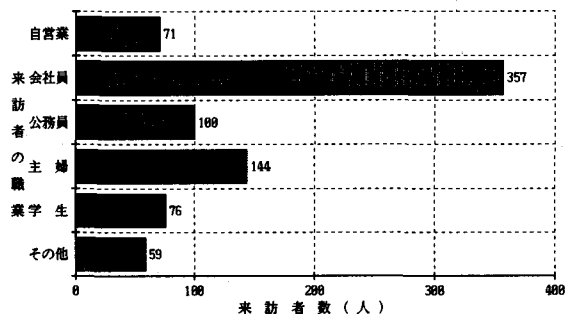


図-4 来訪者の職業

(3) 来訪者の居住地

北九州市は、昭和38年に門司・小倉・戸畑・八幡・若松の5市合併により誕生したが、それぞれの都市は明治以降の近代化の過程で急速な発展を遂げてきた。本調査では、来訪者の居住区として、門司区（旧門司市）、小倉区（旧小倉市、現小倉北区・南区）、八幡区（旧八幡市、現八幡東区・西区）、その他の市内（旧戸畑市、若松市、現戸畑区・若松区）、福岡県内、福岡県外として区分した。北九州市の都心である小倉区からの来訪者が約35%と多く、続いて、地元の門司区からが約24%となっている。福岡県外からは、約12%と比較的に

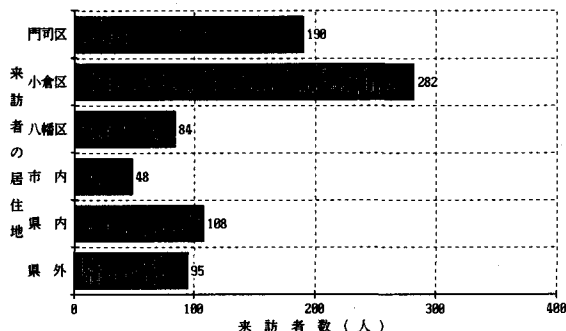


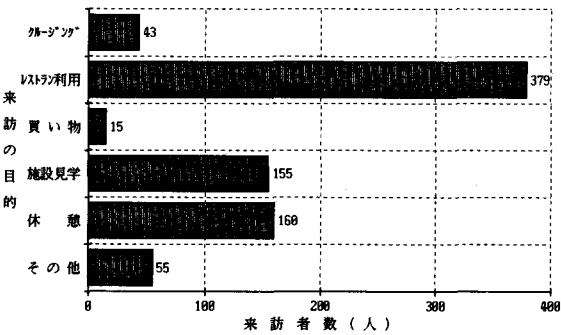
図-5 来訪者の居住地

少ない。（図－５参照）

5. 来訪目的、来訪頻度、交通手段

(1) 来訪の目的

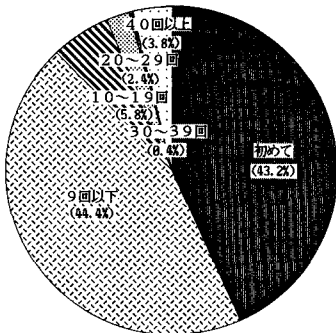
平成5年が冷夏ともいわれる異常気象であったことの影響もあり、主たる来訪目的は、レストラン利用が回答者の約47%と多く、クルージング目的は約5.3%と非常に少ない。（図－6参照）



図－6 来訪者の来訪目的

(2) これまでの来訪回数

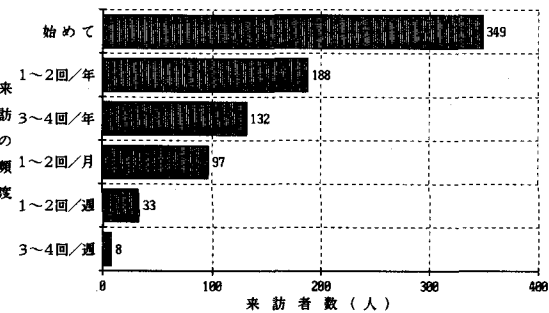
新門司マリーナが平成3年11月に完成して以来、調査時点までに約1年8ヶ月しか経過していなかったこともあり、初めて、あるいは、9回以下の人がそれぞれ約43%、約44%と多い。（図－7参照）



図－7 これまでの来訪回数

(3) 来訪の頻度、交通手段、再来訪の予定

新門司マリーナへの来訪頻度を図－8に示す。初めての人約43%に続いて、1～2回/年の人が約23%と多く、新門司マリーナまでの交通手段は、公共交通機関の利用が不便なこともあり、約98%（793人）が自家用車によっている。また、再来訪の予定については、

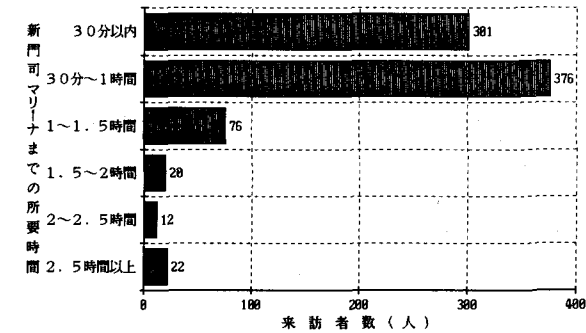


図－8 来訪者の来訪頻度

約23%（187人）が「必ず来る」と、約34%（274人）が「来る予定」と回答し、いずれも「予定なし」の約21%（167人）を上回っている。

(4) 新門司マリーナまでの所要時間

新門司マリーナまでの所要時間は、30分～1時間が約47%、続いて、30分以内が約37%と比較的近距離からの利用者が多い。（図－9参照）

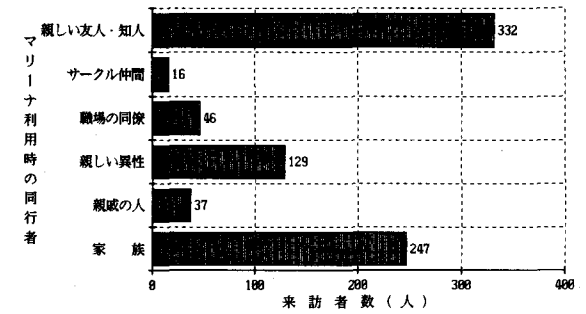


図－9 新門司マリーナまでの所要時間

6. 施設の利用状況

(1) 利用時の同行者

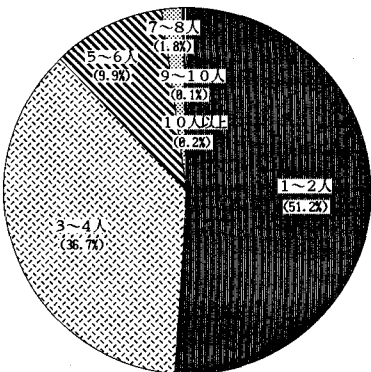
マリーナ利用時の同行者は、親しい友人・知人が約41%、続いて、家族が約31%と多く、親しい異性が約16%となっている。（図－10参照）これは、図－6に示したように、来訪の主たる目的がレストラン利用・施設見学・休憩などであったことによると思われる。



図－10 マリーナ利用時の同行者

(2) 利用時の人数

マリーナ利用時の人数は、1～2人が約51%（413人）、3～4人が約37%（296人）と比較的少人数



図－11 マリーナ利用時の人数

数での利用が多い。(図-11参照)

(3) マリーナの利用(滞在)時間

マリーナの利用(滞在)時間は、1時間以内が約55%、続いて、1～3時間が約38%と比較的短時間の利用者が大多数を占める傾向にある。(図-12参照)
これは、先にも述べたように、来訪の主たる目的がクルージング以外であることによると思われる。

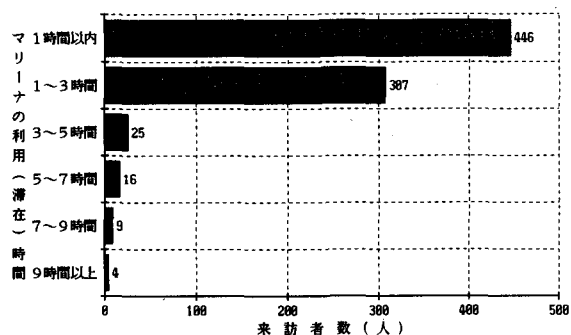


図-12 マリーナの利用(滞在)時間

(4) 船上での行動目的

クルージング目的以外の来訪者を含めた回答結果によれば、船上での行動目的としては、食事をするが約33%(74人)、続いて、クルージング(航走)を楽しむが約28%(63人)で、つりが約17%(39人)となっている。(回答者数227人、図-13参照)

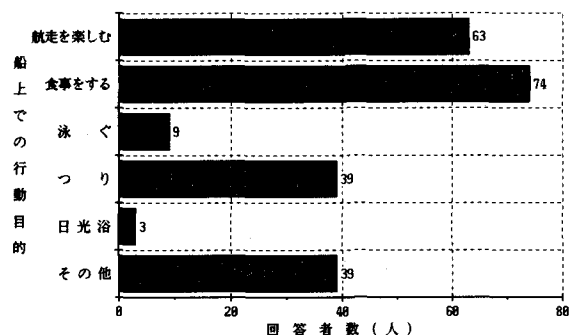


図-13 船上での行動目的

(5) 各種施設の利用状況

各種施設の利用状況については、ロッカーおよびシャワーはあまり利用されていないが、艇施設(上下架用)は、約19%が「よく利用している」と回答している。また、艇の修理施設については、新門司マリーナが平成3年11月に完成して以来、調査時点までに約1年8ヶ月しか経過していなかったこともあり、まだ、あまり利用されていないようである。レストランは比較적으로よく利用されており、また、売店もある程度利用されている。(図-14参照)

(6) 近くのフェリーターミナルとの連携(共同)利用

新門司マリーナの設置されている新門司地区は、先にも述べたように(図-2参照)、関西と関東を結ぶフェリーの基地として整備が進められている。⁴⁾ 現在稼働中のフェリーターミナルとは産業道路で結ばれているが、公共の交通機関はなく、徒歩で約20～30分程度の距離である。新門司マリーナとの連携(共同)利用につい

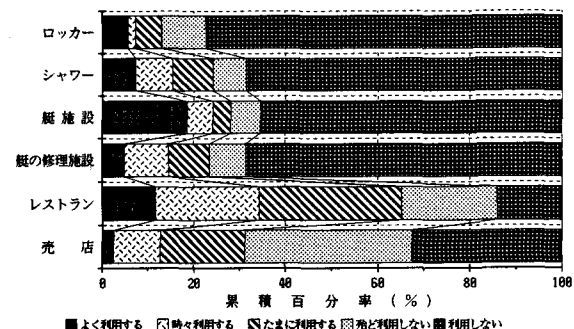


図-14 各種施設の利用状況

ては、「乗船までの待ち時間に利用したい」が約7%、このために「ターミナルとマリーナの間に近道がほしい」が約6%と回答しており、「特に考えたことがない」が約83%と大多数を占めている。(図-15参照)

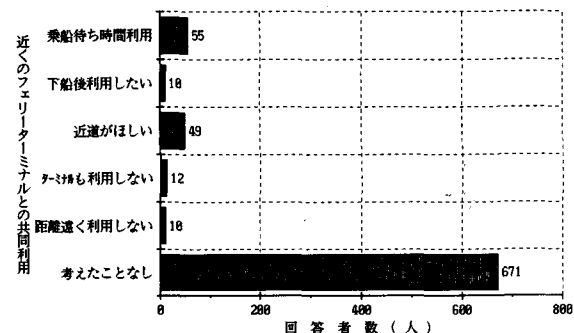


図-15 近くのフェリーターミナルとの共同利用

7. 施設利用前の意識

(1) 来訪者の施設利用前の意識

来訪者の施設利用前の意識としては、約45%(364人)が「普通」、続いて、約35%(282人)が「興味あった」と回答している。(図-16参照)

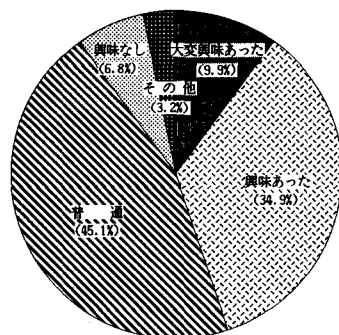


図-16 来訪者の施設利用前の意識

(2) 新門司マリーナの知名度

来訪者の約37%が「まあまあ知られている」と回答し、続いて、約29%が「少し知られている」と、「よく知られている」は約14%となっている。(図-17参照) 新門司マリーナが完成して以来、調査時点までに約1年8ヶ月しか経過していないことを考えれば、この程度の知名度が現状であろう。

(3) 利用前の施設に関する知識

来訪者の利用前の各種施設に関する知識は、「食事ができる」すなわち、レストランとしての機能を約58%

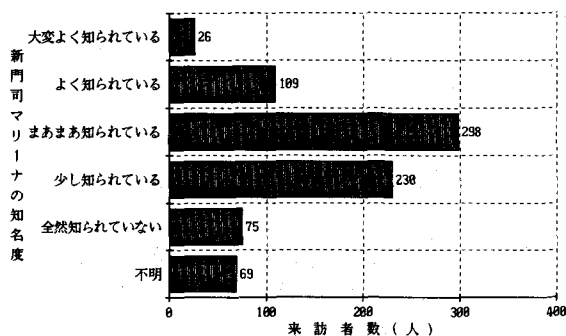


図-17 新門司マリーナの知名度

がよく知っていたと回答している。続いて、「買い物ができる」ショッピングとしての機能を約28%がよく知っていたと回答しており、マリーナとしての機能はまだ十分には知られていないようである。(図-18参照)

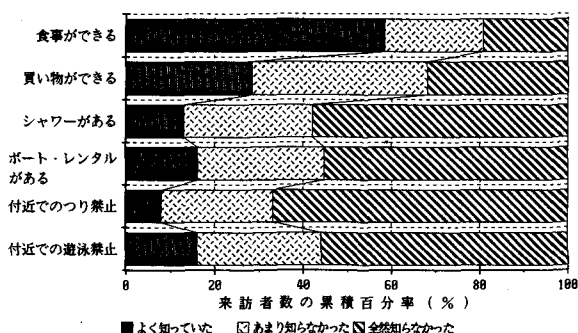


図-18 利用前の施設に関する知識

なお、来訪者の約12%(96人)は他所でマリーナを利用(艇の保管など)したことがあると回答しており、利用したマリーナも関東地方(千葉県浦安、神奈川県葉山・逗子など)から沖縄県まで広範囲にわたっている。

また、地元福岡県でも、北九州市門司・小倉や福岡市小戸・百道などで利用したことがあると回答している。

8. 施設利用後の意識

(1) 現在の施設についての満足度

新門司マリーナのレストラン、売店、修理工施設など付帯施設についての利用者の満足度は、過半数の約52%(416人)が「普通」と回答し、「やや不満」が約20%(162人)、「満足」が約17%(137人)となっている。(図-19参照)

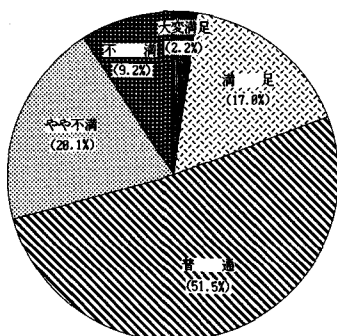


図-19 現施設についての満足度

(2) 来訪後受けた感じ(イメージ)

来訪後受けた感じ(イメージ)として、来訪者の約5

4%が「普通」と回答し、約27%が「楽しかった」と、「もっと楽しいと思っていた」の約10%を上回っている。(図-20参照)

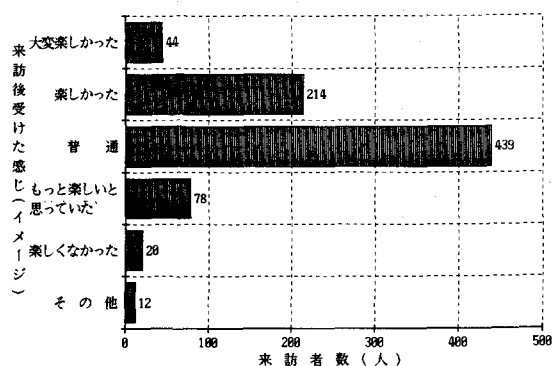


図-20 来訪後受けた感じ(イメージ)

(3) 増設を希望する施設

海洋性レクリエーション(マリンレジャー)施設だけに、増設を希望する施設としては、水族館(水槽)が約45%と圧倒的に多く、続いて、展望台(注:現在、オーナーズルームに小規模な展望施設あり)が約26%となっている。現在各地で流行中の「ゲーム施設など」の希望は約6%と少ない。(複数回答あり、図-21参照)

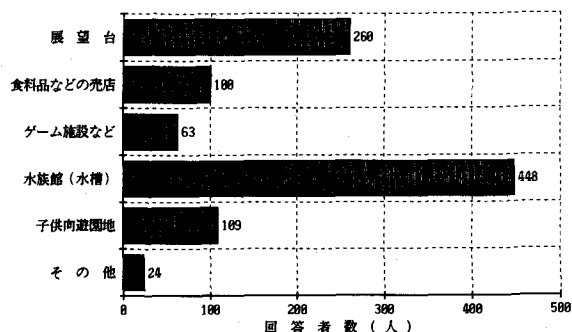


図-21 増設を希望する施設

(4) 禁煙コーナーの設置

現在、ロビーの一部に喫煙コーナーが設けられており、それ以外の場所では禁煙となっていることもあり、来訪者の約50%(404人)が「現状のままでよい」と回答している。(図-22参照)

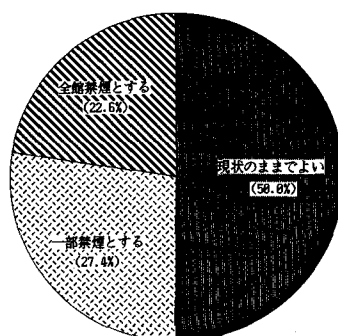


図-22 禁煙コーナーの設置

(5) レストランの営業時間

現行のレストランの営業時間は、11:00~22:00となっており、来訪者の過半数の約55%が「現在のままでよい」と回答しており、約15%が終業を1時

間遅く、約13%が2時間遅くと希望している。(図-2.3 参照)

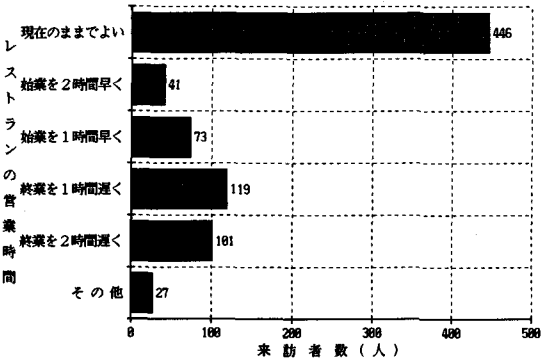


図-2.3 レストランの営業時間

(6) 公共施設としてのマリーナの必要性

公園などと比較して、公共施設としてのマリーナの必要性については、約26%(210人)が「絶対必要」約71%(572人)が「必要」と回答しており、あわせて約97%の来訪者がその必要性を感じている。(図-2.4 参照)

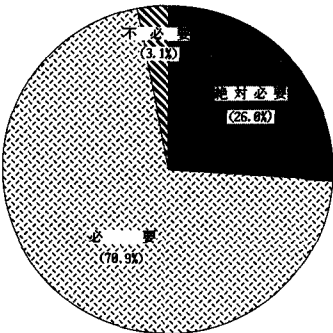


図-2.4 公共施設としての必要性

(7) ヨットスクールなどの開校(開講)の希望

新門司マリーナでは、現在、海洋性レクリエーション活動の普及のため、青少年などを対象としたヨットスクールが開校されている。図-7に示したように、調査期間中の大多数の来訪者(約87.6%)が初めて、または、9回以下の来訪回数であり、このような状況が周知されていなかったこともあり、「開校してほしい」との希望が多くなっている。(図-2.5 参照)

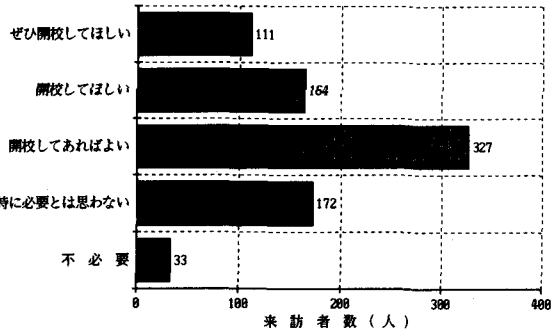


図-2.5 ヨットスクールなどの開校の希望

(8) 周辺に緑地などの必要性

新門司マリーナの周辺にはすでに十分な緑地が整備されているため、公園(広場)、散歩道(遊歩道)などの希望が多い。(複数回答あり、図-2.6 参照)

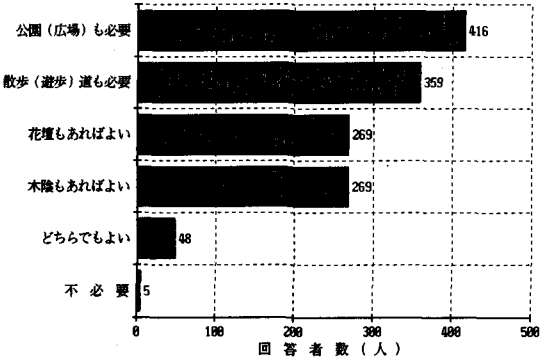


図-2.6 周辺に緑地などの必要性

9. ま と め

都市臨海部水辺空間の利用形態の一つである「公共マリーナ」について、北九州市の新門司マリーナにおいて「アンケート調査」により、利用者の利用状況ならびに利用者の意識に関する調査を実施した。

主要な結論は次のとおりである。

- (1) 新門司マリーナおよびアンケート調査の概要について、簡単に述べた。
- (2) 都市臨海部の公共マリーナにおける利用状況について、ある程度の参考となるデータが得られた。
- (3) 都市臨海部の公共マリーナにおける利用者の意識について、今後この種施設の基本計画のための参考データが得られた。

今後、さらに他場所における調査を行って比較検討するとともに、統計解析(多変量解析など)による分析も進めて行きたい。

最後に、今回の調査にあたって御協力・御助言をいただいた北九州市港湾局、新門司マリーナ(株)、(株)アクアランド、九州共立大学の関係者に感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 大城明弘、片山正敏：北九州市新門司マリーナにおける利用状況調査、平成5年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集、pp.694~695、1994.
- 2) 藤原原子、片山正敏：北九州市新門司マリーナにおける利用者の意識調査、平成5年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集、pp.696~697、1994.
- 3) 岡道也：福岡市・北九州市のウォーターフロントの現状、建築雑誌、VOL.108 NO.1351、pp.36~39、1993.
- 4) 北九州市港湾局：「北九州港港湾計画」パンフレット、1992.